

SMC Japan Technical Center



Bldg.A 吹き抜けに設置した特注のペンダントライトは外部からもエントランス越しに視認でき、その象徴的な造形によって来訪者にこの建築の記憶を高める役割を果たす



(上) Bldg.A アトリウムは照明のノイズを軽減した特注シーリングとR形状に配置した間接照明で空間を包み込む
(下) 間接照明が2階のアトリウムにいざなうBldg.A 5層吹き抜けのエントランス

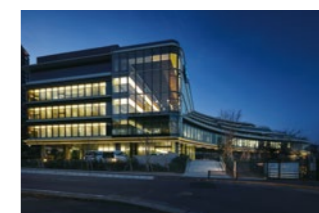
柏の葉スマートシティに誕生したSMCグローバルフラッグシップ拠点。2005年のつくばエクスプレス開業により、ゴルフ場などが広がっていた柏の葉エリアで新市街地整備が始まった。東京大学や千葉大学を始めとした日本屈指の研究機関が隣接する立地特性を活かし、「世界の未来像」をつくる街というコンセプトのもと、公・民・学の7つの構成団体（柏市、三井

不動産、東京大学、千葉大学など）が共同運営する任意団体UDCK*が設立され、柏の葉キャンパス駅前に拠点を開設した。UDCKはその後策定された「柏の葉国際キャンパスタウン構想」を推進し、実行する中心的な役割を担うこととなり、2011年には「スマートシティ構想」を発表。柏の葉スマートシティに建設される施設は全て、このビジョンに沿って協議のもと誘致される

こととなった。この地に産業創出するイノベーション企業として参画を表明したのが、自動制御機器のグローバルリーダーであるSMC株式会社。ゴルフ場跡地に建設されたSMC Japan Technical Centerは、世界中から顧客や研究スタッフが集い、最先端技術の交流や新たなイノベーションを創出する、SMCのグローバルフラッグシップ拠点と位置付けられている。



*UDCK (Urban Design Center Kashiwa-no-ha: 柏の葉アーバンデザインセンター)



SMC Japan Technical Center
 所在地/千葉県柏市若柴
 事業主/SMC株式会社
 設計/KAJIMA DESIGN
 施工/鹿島建設株式会社
 電気工事/Bldg.A 株式会社間電工
 Bldg.B 株式会社ユアテック
 Bldg.C 株式会社きんでん
 開業/2026年3月
 規模/5階建・3棟
 (建築面積: 29,337㎡、延床面積: 90,788㎡)



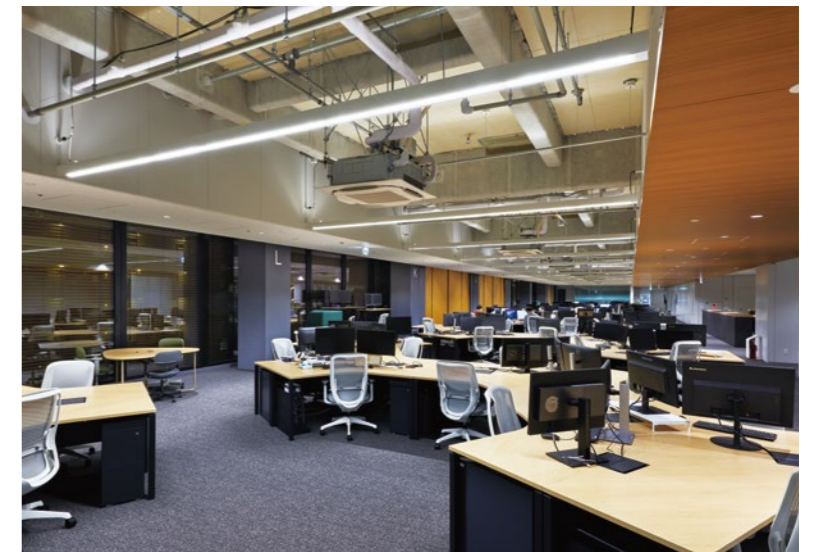
周囲の自然環境とも調和した 地域に開かれた研究開発拠点

SMC Japan Technical Centerは、5階建・3棟で構成されており、延床面積が約91,000㎡におよぶ大規模施設。健康で快適に働くことができる「スマートウェルネスオフィス」をコンセプトとし、研究開発における創造性と生産性を最大化する環境整備を重視している。とくに、バイオフィリックデザインの導入により、自然光の活用や緑化空間との連続性、視環境の質向上などが図られ、CASBEE-建築(新築)とCASBEE-ウェルネスオフィスでSランクに加え、ZEB Readyが取得されている。

柏の葉キャンパス駅からのメインアプローチに位置するBldg.Aは、同センターの顔としての役割を担う。敷地形状に合わせた特徴的な曲面のファサードを備えており、エントランスホールに多様な吹き抜け空間を設けて空間に変化を持たせ、東面は一面ガラスカーテンウォールとすることで、まちに与える閉塞感をなくした開放的な印象を創出。また、一般市民が利用可能なオープンカフェを設けている。さらに、隣接する水辺空間「アクアテラス」と一体化し、周囲の遊歩道を敷地内に引き込み桜並木を整備するなど、地域に開かれた空間が創り出されている。

Bldg.Aでは、多様な吹き抜け空間が設けられた延長100mにおよぶ建物を光の帯でつなぎ、水平方向の照明が空間に統一感を与え、積層することにより空間を立体的に際立たせている。

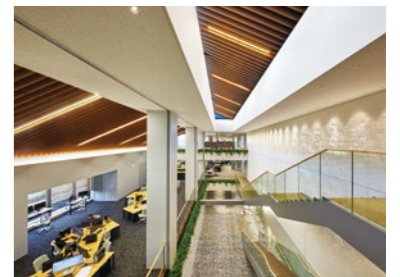
3棟の中で最大の床面積(約44,000㎡)を誇るBldg.Cは、敷地前に豊かな森が広がる「こんぶくろ池公園」が位置し、その環境と連携するように構造の一部に耐火木造が採用されている。また、Bldg.Bは2つの都市公園に隣接するオフィス棟をシームレスにつなぐ。ワークプレイスという面でもBldg.AからB,Cと進むにつれ、オフィスワーカーが働きやすい空間が広がるようにデザインされている。



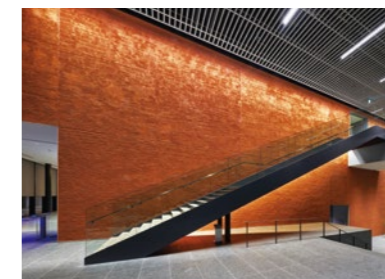
Bldg.B 固定席執務スペースは上下配光特注ラインペンダントとグレアレスダウンライトによる構成



Bldg.C 固定席スペースはスケルトンとボードエリアで同形状特注照明器具を使い分ける構成



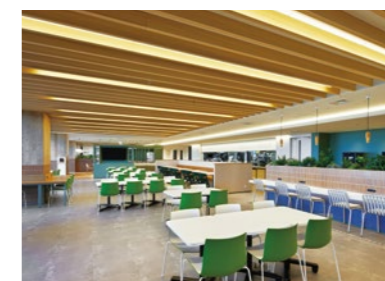
Bldg.B ABW執務スペースは細長い空間構成を生かす建築意匠と一体となった照明計画



Bldg.C エントランスは特注ライン照明で床面と空間を印象付ける赤い壁面を照らす



Bldg.A 吹抜けの打ち合せスペースは特注デザインペンダントライトと間接照明で照度確保



Bldg.C 食堂はインテリアと屋上テラスを考慮した照明計画



Bldg.A セミナールームは0~100%調光のダウンライトにより多目的な使用が可能

主な納入設備

- 特注ラインペンダント
- 特注デザインペンダント
- 特注シーリング
- 特注ライン照明器具
- グレアレスダウンライト
- 建築化照明器具
- 調光システム

◀ (上) Bldg.C ABW執務スペースは耐火木造の柱を考慮した照明配置を検討
(下) Bldg.A 固定席執務スペースはルーバーと一体化させた照明計画で上方の明るさも確保